



通信

2月 行事予定

3日 節分会 星祭り

10日 心経講座

11日 稲荷社ご縁日

15日 涅槃会

17日 観音様ご縁日

28日 懺悔護摩供養

3月 行事予定

10日 心経講座

11日 稲荷社ご縁日

17日 観音様ご縁日

21日 春の彼岸会

28日 懺悔護摩供養

31日 第一回 神仏霊場巡拝



絶対に約束は守ります、助けて下さい

助けてくれたら必ず貴方を大切にします

私は泥の中に落ちて動けないのです

ジャツカル君、力を貸してくださいませんか

ライオンとジャツカル（ジャータカ）より

湖の畔で、鹿を見つけたライオンはしめたかと思いい、一気にその鹿に飛びかかったが、避けられ、柔らかな泥の中にズボッと4本の足をつっこんでしまった。自分の重さの為に身動き出来ず、10日程立ち尽くし、死を覚悟し始めていた。そんな時にジャツカルが通りかかったので、ライオンは必死で助けを乞い、助けてくれたらジャツカルを大切にすると約束した。

ライオンは約束した通り「自分の家は君の家族が住んでも困らない程広いし、君も私と一緒に暮らしていたら危険も少ないので一緒に暮らしませんか?」と誘い、ライオンの家族とジャツカルの家族が中睦ましく暮らし始めた。

何年かするとライオンの妻の心に「私達ライオンがジャツカル如きは何故に敬意を払わなければならないの?との疑念が湧き、ある日、ついにライオンの妻と子供たちはジャツカルの家族に罵声を浴びせ、出ていくようにと脅しつけた。恐怖を感じたジャツカル親子はライオンの家を出て行こうとしたが、ライオンがそれを引き止め、自分の家族に、丁寧に、何故にこのジャツカル親子を大切にしなければならないのか、自分がジャツカルにどれ程感謝しているかを話した。ライオンの話を聞いた家族は涙を流し、自分達の行為を恥じ、それからは長く長く睦ましく暮らした。

と云う寓話があります。私達は夫婦でも、親子でも、互いの気持ちを推測する事はできません。このライオンの家族のような過ちを起こさない為にも、互いに丁寧に自分の気持ちを伝い会いましょう。

2019年度巡拝ツアー 参加者募集!



出雲國神仏霊場

3月31日 2019年度
第1回松江コース開催!!

西国三十三観音霊場

4月22・23日(1泊2日)
第1回 滋賀・京都コース

2019年度の巡拝ツアーを上記日程より新たに開催いたします。

初めての方にも清水寺貫主と霊場を巡る旅は楽しいひと時となるでしょう。

これまで興味があっても始められなかった方ぜひこの機会に、ご家族、ご友人をお誘い合わせの上ご参加下さい。

詳しくはお電話または本堂受付でご確認下さい。

仏教入門 No.52



現在、「戒律」(かいりつ)を取り上げています。以前、この語は元々「戒」と「律」という二つの異なる言葉でしたが、共通する部分もあり、時代を経て並立して使われるようになったことも説明しました。

そして、先月から「戒」から見ていきます。在家信者が守るべき戒として有名な「五戒」(ごかい)を取り上げていますので、以下にその内容を列挙しておきましょう。

- ①不殺生 (ふせっしょう)
- ②不偷盜 (ふちゅうとう)
- ③不邪淫 (ふじゃいん)
- ④不妄語 (ふもうご)
- ⑤不飲酒 (ふおんじゅ)

文字を見て、意味が理解できるのは①と⑤ぐらいでしょうか。②から④の語は、普段の生活ではほとんど見かけることのないものだと思います。

今月は、②不偷盜について解説していきます。②不偷盜には「偷」という難しい文字が使われていますが、この字は「盗」と同じ意味を持っています。そのため、「偷盜」という語になっても「盗む」(ぬすむ)という意味です。したがって、不偷盜とは「[他人の物を]

盗まない、盗んではならない」という意味になります。

現代の我々からすると、先月紹介した①不殺生と同様に、②不偷盜も至極当たり前のことを戒めているわけです。

実際の経典では「自分に与えられていないものを取ってはならない」と少々まどろこしい表現がなされます。以下にその用例を一つ挙げてみましょう。訳は中村元先生の『ブツダのこことば』(岩波文庫)ものを用いています。村にあっても、林にあっても、他人の所有物をば、与えられないのに盗み心をもって取る人——かれを卑しい人であると知れ。(『スッタニパータ』119) 経典作成当時のインド社会において、盗人は厳罰に処せられたと推察されています。そのような状況下にあるため、「盗み」を禁ずることが説かれたのも必然であるように思われます。

実際に、我々人間はお金や道具、持ち物などが無くては生きていきません。持ち物を盗むことによって、他の人を窮地や困難に立たせてしまう可能性があるわけですから、そのような行為は慎むべきと考えたのかもしれませんが。